

特集 はこまち対談

Part
12

まち、若者とともに

染木 加奈子（そめき かなこ）氏

〈PROFILE〉



1980年生まれ。2010年6月開設「はこだて若者サポートステーション」コーディネーターとして、財団法人 北海道国際交流センター（HIF）に勤務。学生時代より人が集まる「場」やそこで生まれる「はじまるきっかけ」に関心を持つ。千葉・札幌にてアートNPO活動・生涯教育・青少年の社会的自立支援などに携わり、2006年地元函館にUターン。2010年3月までまちづくりセンター「cafeオタジラ」経営。お客さまとの出逢いや思い出、おさがりいただいた和服は宝物。好きな言葉は“ありがとう”と“おかげさま”。

今回は、この三月までまちづくりセンターの喫茶オタジラで活躍していた染木加奈子さんに、新しく始めた活動、はこだて若者サポートステーション（サポステ）への想いについてお聞きしました。

丸藤： まちセン内の喫茶オタジラでの三年間、お疲れ様でした。

染木： お世話になりました。本当に。

丸藤： 今の率直な感想は？

染木： 一番の感想は「よくやらせてくれたなあ」です（笑）。私にいくら思いがあったとしても、まだ若かった私に任せてくれるというまちづくりセンターの大きさをずっと見てきた三年間でした。

丸藤： 喫茶から見ていたまちセンは、どんな感じでしたか？

染木： 本当に面白かったですよ（笑）。いつも同じ人いつも違う人が来て、という感じじゃないですか。変わらぬまちセンの中で、いつも違うことが起こっているし、人と人との接点があるから新しいことも起こっているし、空気が巡っている感じです。

丸藤： 他では得られない経験だったかもしれませぬね。

染木： 良い経験をさせてもらいました。それが、サポステで今やっていることにもつながっていると思います。若い人が、安心して失敗しながらチャレンジを繰り返して、からかわれたりしながらまちに育てられていく。まずやってみなよ、という空間に身を置いてみる。そういうのがあってもいいんじゃないかと、そういうまちセンでの三年間があつての、今のサポステです。

丸藤： 喫茶とサポステとはずいぶん違うように思いますが、実はつながっているんですね。

染木： オタジラでの三年間を振り返った時に、強い想いつてなんだったんだろうと言うと、若い人たちがもっとまちの人達に育てられてもいい、まちの人達ももっと若いひとたちに関わっていけるんじゃないかということでした。今、サポステをやらせてもらうというのは、そういうことなのかなと思います。

丸藤： 以前に若者支援などの活動や勉強をしていたんですか？

染木： 5年前に札幌で青少年の社会的自立支援というのをしていました。ただその時は、問題がとても大きくて深いものなので、自分としてはやりきれなさでいっぱいでした。その時のこともあり、今回のことも最初はためらったので

すが、若者サポートステーションというのは総合相談窓口であって、全部を自分で引き受けるところではない。既存の様々な関係機関や、支援機関、行政や民間組織、そして個人などとのネットワークを使って若い人たちを育てていくところだと聞き、決心ができました。

丸藤： 多くの若者は、実際に何かを探したくても何がどこにあるのか、どうしたらいいのかが分からないでいますよね。

染木： サポステの利用者には、社会の生きにくさに苦しんだり、社会参加できない挫折感だとかを持っていたりする人がたくさんいらっしゃるのですが、その人達に対して履歴書の書き方だとか面接の仕方云々とかをやるのがいいかというと、それだけではなく、国際交流のイベントに関わったりとか、まちづくりのボランティアに関わったりとか、そういうことで視野が広がり、自分の考え方と人や社会との関わり方とかが変わってくることも大切だと思うんです。

丸藤： 経験のきっかけづくりですね。

染木： その経験が直接的に就職にどう結び付くかは別にしても、経験や価値観の変化というものを育てていけるのではと思います。

丸藤： 具体的な活動の内容を教えてください。

染木： だいたい、15歳から40歳くらいまでの方が対象です。その人たちの職業的自立支援を行っています。仕事についていない状態の人、なかなか続かない人、ひきこもりがちで社会と関わることがなかなかできないでいる若者に、まずは来てみてくださいというところなんです。まだ自分で自分の悩みを整理できないでいて、まず来ていただいて、一緒に話をして、じゃあどうサポステを利用していかを相談していきます。自由に過ごせる居場所づくりや、ワークショップの提供も考えています。

丸藤： 専門の相談員もいるのですか？

染木： 現在、キャリアカウンセラーや心理カウンセラー、社会福祉士など、4名が登録しています。こういう取り組みを通じて、自分の将来の道筋を少しずつ考えていくとか、活動につなげていくお手伝いをしています。

丸藤： 6月1日にオープンしました。今後の展望などは、ありますか？

染木： いつも夢ばかりなんですけど（笑）若い人たちがいるだけで嬉しいとおっしゃる年齢層の方たちと、若いけれど社会とのかかわりに戸惑ったりしている人達との良い形での接点ができるような仕掛けができるようになれば素敵だなと思っています。

丸藤： キーワードはつながっていく、ですね。

染木： まちセンで喫茶をしていた時、スタッフの女性が、自分と親戚でもないのにまちの人達がなんでこんなに優しくしてくれるんだろうと泣きながら喜ぶんです。私は、目の前で誰かがつながっていくのを見るのが好きなんですよね。

丸藤： 道南では初めての施設ということですし、私としても支援していきたいと思います。

染木： サポステを国際交流センターが運営しているというのは、全国的にみても初めての切り口だと思います。函館独自の切り口で、まちセンで育てられたものを生かしながらやっていきますので、引き続き経験や情報、つながりをたくさん提供してください。

丸藤： こちらこそ、よろしくお願いします（笑）

はこだて若者サポートステーション（市内元町14番1号）
実施団体：財団法人 北海道国際交流センター（HIF）

<総合相談受付>

電話 0138-22-0325 <10:00～17:00>

E-mail: info@hakodate-saposute.jp

URL: http://www.hakodate-saposute.jp

はこだて若者サポートステーションは「働くこと」に一步踏み出せない若者、「働きたい」のに何らかの理由で「働くことができない」若者への支援を目的としています。専門相談員（キャリアカウンセラー、心理カウンセラー、社会福祉士、精神保健福祉士など）やスタッフがお待ちしています。

対象： 15歳～概ね40歳までの就労について悩みを持っている若者（若年無業者）と、保護者・家族

<聞き手>

函館市地域交流まちづくりセンター
センター長 丸藤 競

